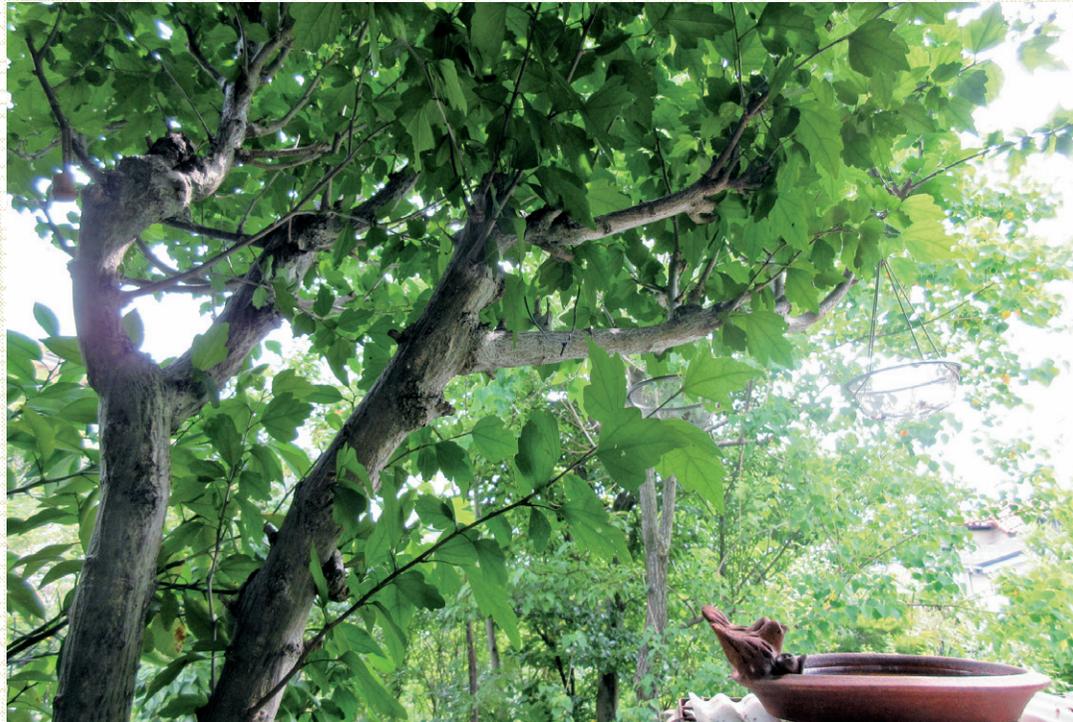




生ごみ減量に取り組む方々

住宅街での取り組み紹介①



こちらは市内の住宅街にお住まいの鈴木さんのお宅です。
鈴木さんのお宅では、生ごみを電気式生ごみ処理機(バイオ式)で、庭の落ち葉などは設置型コンポスト3基でたい肥にしています。
コンポストなどは約20年前から使い始め、できたたい肥は庭で活用しています。
ご夫婦お二人で手入れする庭には四季折々の花が咲き、蝶や蜂が訪れ、住宅街にあるとは思えない空間が広がっています。



住宅街での取り組み紹介②



ニュータウン地区の住宅街にお住まいの伊藤さんは、ダンボールコンポストで、生ごみをたい肥にしています。

ダンボールコンポストを始めたのは平成25年頃。生ごみの量を減らして指定収集袋代を節約したい!という思いから講習会に参加したそうです。

そして、なんと今では可燃ごみは、ほぼ月に1回、ミニサイズ(5リットル)の袋を出すだけになりました。

できたたい肥は庭で、野菜や花を育てるために使っていますが、使わないときは市のたい肥の引き取り制度を利用して、基材と交換しています。

ダンボールコンポストに虫が出たときは驚いたものの、虫とも共存すればいいかな、と考えて、現在まで続けています。

庭の柚子の木には蝶が卵を産み、幼虫が暮らし、娘さんたちも幼虫をかわいがって育てています。



ちょうちょの幼虫さん、かわいいよ!



集合住宅での取り組み紹介 (生ごみリサイクルリーダー紹介⑤)

市内の集合住宅のベランダで、ダンボールコンポストに取り組んでいる赤木さんは、八王子市の生ごみリサイクルリーダーでもあります。そんな赤木さんにいくつか質問してみました。



コンポストはベランダのお勝手口に選別した資源物などと並べています。

Q: ダンボールコンポストとの出逢いは?

A: 現役時代から生ごみのたい肥化に取り組んでいましたが、平成21年頃に、中野区の団体が実施するダンボールコンポスト講習会を受ける機会がありました。そこで、非常に手軽で臭いも少ないことに感動して以来の付き合いになります。

Q: 集合住宅で取り組むメリットはありますか?

A: 集合住宅でのゴミ出しには結構苦労がありますよね。可燃ごみの中に生ごみが入っていると重く、夏にはにおいも気になります。ダンボールコンポストをはじめてからは、紙片やプラスチック片を中心としたごみになり、保管・運搬が楽になりました。燃えるごみの量も半分以下になり、ごみ出し袋のサイズも小さくなって財布も楽になりましたよ。



Q: できた「たい肥」はどう使っていますか?

A: ベランダで利用できるプランターを使い、花や簡単な野菜作りをしています。朝顔やゴーヤなどの緑のカーテン、イタリアンパセリやミントなどのハーブも育てています。毎朝ベランダに出るのが楽しいですよ。

ダンボールコンポストを前に、
パチリ!



Q: 最後に、八王子市民のみなさんへのメッセージをお願いします。

A: 人間に美味しいものは植物(微生物)にも美味しい。「人の口に入って美味しいものは、微生物にも美味しく、そのたい肥を使えば野菜も美味しくなる」：ある農家さんの言葉) この言葉はいつも講習会でご紹介しているものです。私はこの言葉にピピッときて、生ごみ資源化に取り組みはじめました。

みなさんも、もし、自分の心に響いたものがあればそれを大切に、できることから、生ごみの減量を始めてみませんか?



イタリアンパセリ、バジル、ミントなどを雑草も一緒に寄せ植え

家庭菜園での取り組み紹介①



この冊子のイラストも手掛けている守屋さんの畑では、設置型コンポスト容器(以下、コンポストとします)を設置して、生ごみ減量に取り組んでいます。

コンポストに入れる生ごみは、ご自宅のものだけではなく、お隣の家のものや、お世話になっている農家の方からいただいた廃棄野菜も、一緒にして入れています。

ほぼ毎日バケツに貯めた生ごみを入れていますが、自然の力で分解されるため、コンポストからあふれることはないそうです。

コンポストからできたたい肥を使うと、野菜の育ちが良くなるそうです。また、たい肥の中に残った種が芽吹き、自然にトマトやかぼちゃなどの野菜がたくさん実るそうです。採れた野菜は、自分の家で使うだけでなく、生ごみをいただいたお隣の家にもおすそわけしています。

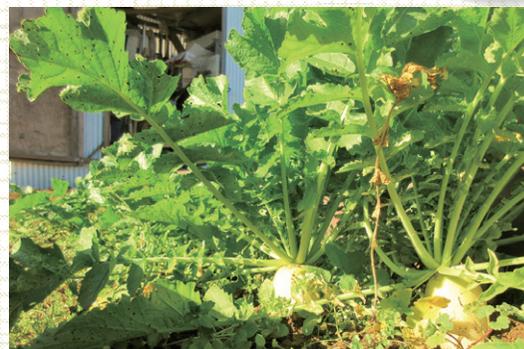
また、コンポストによる生ごみ減量以外にも、普通であれば捨ててしまう、芽の生えた玉ねぎやねぎの根っこの部分をそのまま植え、育てて収穫することで、生ごみの減量に取り組んでいます。



家庭菜園での取り組み紹介②

市内の住宅街にお住まいの高山さんは、借りている畑の一角で、生ごみをたい肥化し、野菜を育てるために使っています。

畑をお訪ねしたのは12月で、約80坪の畑には芽キャベツや大根のほか、ハヤトウリや金時草などの珍しい野菜も元気に育っていました。



高山さんが畑を始めたのは7年ほど前で、生ごみを使ってのたい肥作りは6年前から。生ごみたい肥を使った野菜作りの講演会に出かけたことがきっかけではじめたそうです。

家庭で出た生ごみは早く分解させるために5ミリ以下に細かく刻んで、ほぼ毎日畑に運び、たい肥化しています。また、収穫後に残った葉っぱや茎も、たい肥化して畑に活用しています。



ダンボールコンポスト研究会

ダンボールコンポストに取り組む市民の方々が集まり、エコひろばを拠点にダンボールコンポストの普及のための活動や研究を行なっています。現在はダンボールコンポストのたい肥を使って、野菜や花を育てたり、イベントに参加して生ごみの資源化を呼びかけています。



メンバーは月に1回集まり、情報交換や花壇などの手入れをして、にぎやかに楽しく取り組んでいます。随時、メンバーは募集しておりますので、ご興味のある方は、ぜひエコひろばまでご連絡ください。

生ごみリサイクルリーダー

7ページで紹介した生ごみリサイクルリーダーですが、最後に、これまでのページで紹介した方以外の3人のリーダーを紹介します。

生ごみリサイクルリーダー紹介⑥ 鈴木さん

ダンボールコンポスト講習会を担当。



鈴木さんから一言

前から環境問題に関心がありました。身近に取り組めるダンボールコンポストを始めて生ごみを捨てるという事もなくなりました。環境について学ぶ「eco検定」でecopeopleの一員にもなれました。ぜひ皆さんも一緒に始めませんか？

生ごみリサイクルリーダー紹介⑦ 富野さん

ダンボールコンポスト講習会を担当。



富野さんから一言

生ごみは食品資源として再生可能な資源です。たい肥化することで美味しい野菜作りに有効活用しています。手作りたい肥で安全安心な食生活を次世代へ繋いで生ごみのない環境を未来へと伝えたいです。

生ごみリサイクルリーダー紹介⑧ 小林さん

ダンボールコンポスト講習会を担当。エコひろばのスタッフでもあります。



小林さんから一言

環境にやさしいダンボールコンポストで、生ごみを焼却しない循環生活を始めてみませんか？かんたんでとっても楽しいですよ！エコひろばでお待ちしております。

最後までご覧いただき、ありがとうございます。

この冊子には、それぞれのライフスタイルに合わせ、気負わず、生ごみ減量に取り組んでいらっしゃる方がたくさん登場します。生ごみ減量、どんな小さなことでも、はじめてみませんか？

